

学校における性に関する指導について

性に関する指導について

・学校における性に関する指導は、学習指導要領に基づき、児童生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動を取れるようにすることを目的に実施されており、体育科、保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて指導することとしている。

・指導に当たっては、①発達の段階を踏まえること ②学校全体で共通理解を図ること ③保護者の理解を得ること などに配慮するとともに、④事前に、集団で一律に指導（集団指導）する内容と個々の児童生徒の状況等に応じ個別に指導（個別指導）する内容を区別しておくなど、計画性をもって実施することが大切である。【学習指導要領解説（保健体育編）】

学習指導要領及び解説（体育科、保健体育科）の主な記述

小学校

- 体は思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること（変声、発毛、異性への関心も芽生えることについても理解できるようにする）

中学校

- 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること、また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること（射精、月経、性衝動、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要になることを理解できるようにする）
- 妊娠や出産が可能となる観点から、受精・妊娠を取り扱うものとする
- 感染症については、後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症についても取り扱うものとする

高等学校

- 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること（受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題、また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて理解できるようにする）
- 感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること（エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策についても理解できるようにする）

文部科学省の取組

- 教職員を対象とした健康教育指導者養成研修や教育委員会担当者を対象とした会議において研修等を実施
- 小・中・高校生向けに性感染症や妊娠・出産等を含む児童生徒の健康問題を総合的に解説した教材を文部科学省HPに掲載するとともに、教育委員会担当者が集まる会議等において周知
- 厚生労働省と連携し、性に関する指導において産婦人科医や助産師等の外部講師を活用することについて教育委員会へ周知



小学校段階

＜小学校学習指導要領（H29）＞

（2）体の発育・発達＜第4学年＞

ア 体の発育・発達について理解すること。

（イ） 体は，思春期になると次第に大人の体に近づき，体つきが変わったり，初経，精通などが起こったりすること。また，異性への関心が芽生えること。

＜小学校学習指導要領（H29）解説 体育編の関連する記述＞

（イ） 思春期の体の変化

ア 思春期には，体つきに変化が起こり，人によって違いがあるものの，男子はがっしりした体つきに，女子は丸みのある体つきになるなど，男女の特徴が現れることを理解できるようにする。

イ 思春期には，初経，精通，変声，発毛が起こり，また，異性への関心も芽生えることについて理解できるようにする。さらに，これらは，個人差があるものの，大人の体に近づく現象であることを理解できるようにする。

なお，指導に当たっては，発達の段階を踏まえること，学校全体で共通理解を図ること，保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

<小学校学習指導要領（H29）>

第6章 特別活動

〔学級活動〕

2 内容

（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

<小学校学習指導要領（H29）解説 体育編の関連する記述>

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

（略）・・・心身ともに健康で安全な生活態度の形成は、教育活動全体を通して総合的に推進するものであるが、学級活動においてもその特質を踏まえて取り上げる必要がある。（略） また、授業時数に限りがあることから、「（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」については、体育科、家庭科はもとより、各教科、総合的な学習の時間等とも関連を図りながら指導することが大切である。

保健に関する指導としては、心身の発育・発達、心身の健康を高める生活、健康と環境とのかかわり、病気の予防、心の健康などがある。これらの題材を通して、児童は、自分の健康状態について関心をもち、身近な生活における健康上の問題を見付け、自分で判断し、処理する力や、心身の健康を保持増進する態度を養う。さらに、性や薬物等に関する情報の入手が容易になるなど、児童を取り巻く環境が大きく変化している。こうした課題を乗り越えるためにも、現在及び生涯にわたって心身の健康を自分のものとして保持し、健康で安全な生活を送ることができるよう、必要な情報を児童が自ら収集し、よりよく判断し行動する力を育むことが重要である。

なお、心身の発育・発達に関する指導に当たっては、発達の段階を踏まえ、学校全体の共通理解を図るとともに、家庭の理解を得ることなどに配慮する必要がある。また内容によっては、養護教諭などの協力を得て指導に当たる必要がある。

4. 展開例（2/4）

（1）思春期の体の変化①

（2）本時の目標

- ・思春期になると人によって違いがあるものの、次第に大人の体に近づき、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れることや変声や発毛が起こることなどについて、言ったり、書いたりすることができるようにする。（知識）
- ・思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気づき、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

（3）展開 ：ねらい ：学習内容 ：発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価						
導入 5分	1 後姿クイズを行い、男女の体つきの違いについて考える。 どちらの写真が男子か、女子かわかるかな？ <予想される反応> ・1年生の時は、後ろ姿だと男女の区別が分かりにくい。 ・中学生だと分かりやすい。 思春期とは、どういうことか覚えていますか？	○体つきの変化が分かるように、小1の男女及び中3の男女の後ろ姿の写真を用意しておく。 ○気付いた理由についても触れて聞く。 「大人に近づくにつれて、男女の体つきには特徴のある変化が起こるようだね」と投げかけ、本時のねらいにつなげよう。 ○前時の身長伸びの学習を想起させ「発育が盛んな時期」を思春期であると学習したが、「大人の体に変化していく時期」も「思春期」の特徴であることを伝え、本時のねらいにつなげる。						
展開 25分	2 学習のねらいを知る。 大人に近づくにつれて体は、どのように変わっていくのだろう。 3 思春期に起こる男女の体の変化について話し合う。 ① 班に配られた用紙に、男子の変化に当てはまるカードは男子のスペースに、女子の変化に当てはまるカードは女子のスペースに、両方の変化に当てはまるカードは両方のスペースに置いていく。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>男子</td><td>両方</td><td>女子</td></tr> <tr> <td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	男子	両方	女子				○恥ずかしさを軽減するため、ゲーム性を持たせ、思春期になると、体つきや体にどのような変化があるのか、自分の生活を基に班で話し合うよう指示する。 ○それぞれの班が考えた変化カードの結果を黒板に貼りに来てさせ、正答の多いところから全体で確認していく中で、意見が割れたところはなぜそう思ったのか理由を聞きながら進める。
男子	両方	女子						

② 黒板に班の考えを貼り全体で確認する。 ・思春期には、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること。 ・思春期には変声や発毛が起こること。 4 体の変化が起こる時期や起こり方について知る。 ・変化の起こり方は、人によって違いがあること。	○発毛については、男女両方に起こる発毛や男子に起こるひげなどの発毛があることを伝える。 ○全体の確認後、思春期は、大人の体に近づくことで体つきに変化が起こり男女の特徴が現れることや変声や発毛などが起こることなどを押さえる。 ○思春期の体つきの変化が起こる時期は、前時の身長の時と同じように一般的に男女差があり、人それぞれ違うことを伝える。 ○男性のひげを例に、目立つ人がいたり、そうでない人がいたりするように、変化の起こり方も人それぞれ違うことを知らせる。
5 学習のまとめをする。 ・学習カードに思春期に起こる体の変化について記入し、発表する。 ・これから、みなさんも思春期を迎えます。思春期を迎えた自分の体はどのように変化していきますか？今日、学習した思春期に起こる変化を学習カードにまとめましょう。 6 体の発育・発達に不安を感じている児童の事例を用い、学習したことを生かし、アドバイスを学習カードに記入し、発表する。 ・体の発育・発達に不安を感じている友達に、今日学んだことや自分の成長を想像しながら、学習カードにアドバイスを書いてみましょう。 <予想される反応> ・その気持ち、分かるよ。でも、大人に近づいている証拠だし、起こる時期や起こり方は人それぞれ違うから、早いからといって気にすることないよ。 ・気にしないで大丈夫だよ。授業でも勉強したじゃないか。大人の体になってきているのだから、恥ずかしいことじゃないよ。 ・思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えること。 7 教師の話聞く。 ・教師の話 ・次時の予告 最後に教師は、児童の発表を通じて、自分や他の人を大切にする気持ちを育てる観点から、個人差はあるものの体つきの変化は大人になるための現象であることや発育・発達の違いなどについて、肯定的に受け止めることが大切であることの話をしましょう。	○学習カードにこれらの自分の体の変化を想像させ、思春期に起こる男女の体の変化や、起こる時期、起こり方は人それぞれ違うことなどを、自分の言葉でまとめるよう促す。 ○友達の意見を聞いて、自分の考えに新たな視点が生まれ、考えが深まったりしたことを学習カードの「つづき」部分に記入するよう助言する。 ◆【知識・技能】 思春期になると、人によって違いがあるものの次第に大人の体つきに近づき、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れることや変声や発毛が起こることについて、言ったり、書いたりしている。（観察・学習カード） ○本時の学習を生かしたり、自分の発育・発達と結び付けたりして、アドバイスを考えるよう助言する。 ◆【思考・判断・表現】 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えている。（観察・学習カード） ○発表で足りない部分がある場合は、教師の話で補足する。 ○学習をしてみても質問したいこと、不安や心配ごとがあったらいつでも相談してよいことを伝え、保健指導につなげる。

中学校段階

＜中学校学習指導要領（H29）＞

（2）心身の機能の発達と心の健康

課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。

ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。

（イ）思春期には、内分泌の動きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

【内容の取扱い】

妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、身体の機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性への尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。

＜中学校学習指導要領（H29）解説 保健体育編の関連する記述＞

（イ）生殖にかかわる機能の成熟

思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを理解できるようにする。また、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるようにする。

なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

＜中学校学習指導要領（H29）＞

（１）健康な生活と疾病の予防＜第3学年＞

課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。

ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。

（イ）感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。

【内容の取扱い】

後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症について取り扱うこと。

＜中学校学習指導要領（H29）解説 保健体育編の関連する記述＞

（１）健康な生活と疾病の予防＜第3学年＞

（イ）感染症の予防

① エイズ及び性感染症の予防

エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路について理解できるようにする。また、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。例えば、エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする。

なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

＜中学校学習指導要領（H29）＞

第5章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

2 内容

（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。

ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする
こと。

＜中学校学習指導要領（H29）解説 保健体育編の関連する記述＞

イ 男女相互の理解と協力

（略）・・・具体的には、男女相互の理解と協力、人間の尊重と男女の平等、男女共同参画社会と自分の生き方などの題材を設定し、アンケートやインタビューを基にしたり、新聞やテレビ等の資料を参考にしたりして、話し合うなど活動の工夫を行うことが考えられる。

また、社会科、保健体育科、技術・家庭科、道徳科などの学習とも関連させ、共に充実した学校生活を築くような主体的な意識や態度を育成するとともに、家庭や社会における男女相互の望ましい人間関係の在り方などについても、幅広く考えていくことが大切である。

なお、この内容については、性に関する指導との関連を図ることが重要であり、内容項目のウとして挙げている「性的な発達への対応」とも関連付けて、生徒の発達の段階や実態、心身の発育・発達における個人差などにも留意して、適時、適切な指導を行うことが必要である。加えて、生徒の発達の段階を踏まえることや教育の内容について学校全体で共通理解を図るとともに保護者の理解を得ること、事前に集団指導として行う内容と個別指導との内容を区別しておくなど、計画性をもって実施することが求められるところであり、適切な対応が必要である。

ウ 性的な発達への対応

（略）・・・具体的な活動の工夫として、自分が不安に感じること、悩みやその解決方法、身近な人の青年時代等の題材を設定し、生徒が自由に話し合ったり、先輩や身近な大人にインタビューして発表したり話し合ったりするなど様々な方法が考えられる。また、思春期の心と体の発育・発達、性情報への対応や性の逸脱行動に関すること、エイズや性感染症などの予防に関すること、友情と恋愛と結婚などについての題材を設定し、資料をもとにした話合いや、専門家の講話を聞くといった活動が考えられる。なお、保健体育（保健分野）をはじめとした各教科、道徳科等の学習との関連、学級活動の他の活動との関連について学校全体で共通理解した上で、教育の内容や方法について保護者の理解を得ることが重要である。

また、思春期の心と体の発達や性については、個々の生徒の発達の段階や置かれた状況の差異が大きいことから、事前に、教職員が、集団指導と個別指導の内容を整理しておくなど計画性をもって実施する必要がある。また、指導の効果を高めるため養護教諭やスクール・カウンセラーなどの専門的な助言や協力を得ながら指導することも大切である。

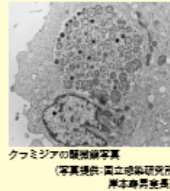
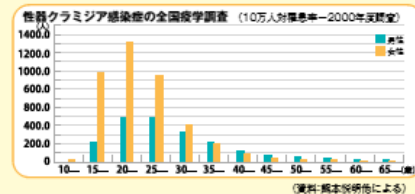


第6章 感染症

性感染症について知ろう！

性器クラミジア感染症とはどんな病気なの？

性器クラミジア感染症は、性的接触によって起こる性感染症です。感染すると排尿時（おしっこをするとき）の痛みや、女性ではおりものが増えるなど、不快な症状が出てきます。症状が軽いので感染しても気づかないことが多い病気ですが、10代後半から20代の若い人たちに感染が広がっています。



エイズとはどんな病気なの？

エイズとは、エイズのウイルス（以下 HIV）に感染して起こるウイルス感染症です。ところが、HIV は白血球の一つであるリンパ球の中に入って増え、これを破壊します。そのため、感染すると病原体などから体を守る「免疫」が徐々に働かなくなり、抵抗力が低下していきます。その結果、健康なときには感染しない様々な感染症やがんなどにかかるようになり、この状態をエイズといいます。また、「免疫」が働かなくなる状態を「免疫不全」といいます。

エイズ

Acquired Immunodeficiency Syndromeを略し、**AIDS**（エイズ）と呼んでいます。日本語では、後天性免疫不全症候群と名付けられています。

エイズのウイルス

Human Immunodeficiency Virusを略し、**HIV**と呼んでいます。日本語では、ヒト免疫不全ウイルスと名付けられています。

column

第6章 感染症

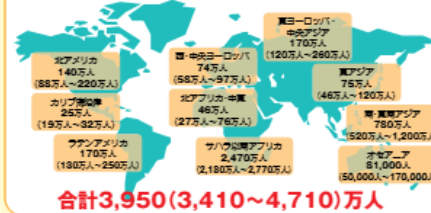


「エイズは自分と関係ない」と思いませんか？

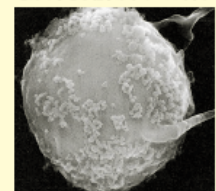
世界中でHIVに感染する人がいます

世界中でのHIV感染者・エイズ患者推計3,670万人（平成28年度）にのぼると推計されています。

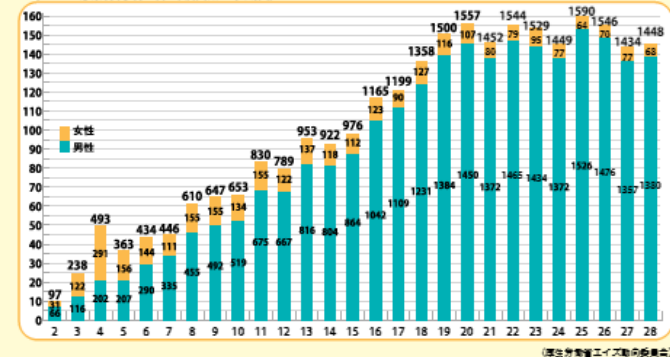
世界のHIV感染者・AIDS患者の推計総数（2006年末現在）



HIVに感染したリンパ球
表面に群がるように付いているたくさんの小さな粒子がウイルスです。



日本のHIV感染者（患者を含む）層出数の年次推移



エイズも性感染症であり、性器クラミジアなどの性感染症にかかっていると、性器の粘膜が弱って傷ついていることがあり、HIV に感染しやすくなります。

正しい知識をもって感染を予防することが大切です。

<保健体育>

6. 展開例（3／4時間）

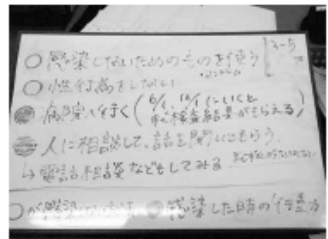
（1）性感染症の予防

（2）本時の目標

- ・性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて理解できるようにする。
- ・感染症の予防について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等に係るリスクを軽減する方法を選択するとともに他者に伝えることができるようにする。

（3）展開 ：ねらい ：学習内容 ：発問・指示など

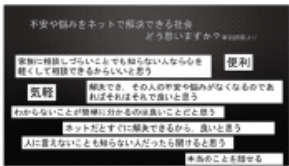
時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 10分	1. 性感染症報告数のグラフ（梅毒）を見て気付いたことを発表する。 ・これはある感染症の報告者数の年齢別の年次変化を表したグラフです。気付いたことを話し合ってみよう。 <予想される反応> ・年々増えている。 ・10年前の10倍以上になっている。 ・若い人が多い。 ・年寄りはいない。 ・何の病気だろう。 	○授業前に学校全体で共通理解を図るとともに、学年により等で学習内容を保護者等に周知し、理解を得よう配慮する。 【参考】性感染症報告数のグラフ（梅毒）は、厚生労働省ホームページ「性感染症報告数」 (https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html) のデータを基に作成。 ○グループになり、気付いたことを書き出させる。 グループで話し合い、ミニホワイトボード等に書かせましょう。 
	2. 学習のねらいを知る。 性感染症を知り、その予防について考えよう。	○学習課題を提示し、本時のねらいを押さえる。
展開 30分	3. 性感染症の疾病概念や種類を知る。 （学習内容） ・性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていること。また、それらの疾病概念や感染経路について。	○スライドを使い、性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることについて、疾病概念について説明する。 ・感染源はウイルス、細菌、原虫など ・感染者の体液に感染源が含まれている。 ・性的接触により人体の粘膜を通して感染

4. 性感染症を予防したり、広がりを防いだりする方法を考える。 ・性感染症に感染しないための方法や、万一が感染した場合に取るべき行動について考えよう。 <予想される反応> ・性的接触はしない。 ・正しい知識を持ち、感染しないようにする。 ・怪しいと思ったら、すぐに病院に行く。 	・感染していることに気が付きにくい、広がりやすい。 ・日常生活では通常感染しない。 病名や症状を重点的に説明するのではなく、性感染症の概念について科学的に説明するようにしましょう。  ◆【知識・技能】 性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて理解したことを言ったり、書いたりしている内容等を【観察・ワークシート】で捉える。 ○グループで話し合いを行い、グループごとに考えをまとめる。 ◆【思考・判断・表現等】 性感染症の予防について、習得した知識を自他の生活と関連付け、疾病等にかかるリスクを軽減する方法を選択しているとともにそれらを他者に伝えている状況等を【観察・ワークシート】で捉える。 科学的根拠に基づき考えられるよう、提示資料等を工夫しましょう。  ○性感染症の予防について正しい知識をもつこと、正しい判断力をもつことが大切であることを伝える。
5. 本時の学習のまとめをする。 （本時のまとめ）性感染症とは、性的接触によって感染する病気であり、感染していることに気が付きにくい、感染が広がりやすい。 ・予防には、感染経路を断つことが大切。	○ワークシートに各自でまとめさせる。 ○性感染症は、身近に迫っている問題であり、予防方法を身に付けることが必要であることを伝え、まとめとする。

<特別活動>

4. 展開例

- (1) 「自他の人格を尊重した行動を目指す～性トラブルについて考える～」
- (2) 目指す生徒の姿
 - ・性トラブルの要因（背景）や性に関する情報等を正しく理解する。
 - ・性トラブルの未然防止とその具体的な方策を考える。
 - ・自己の悩みや不安を解消しながら自他の人格を尊重した行動をしようとする。
- (3) 展開

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点
導入 つかみ10分	1. 社会の傾向について知る。 なぜ性被害は増えているのだろうか？ 2. 中高生の性に関する悩みや相談先について説明する。 	○平成30年における子供の性被害の状況を説明する。 ○なぜ性被害が増えているのか考えさせる。 ○性に関する悩みをネットや掲示板で相談していることについて触れ、自ら性トラブルを招いてしまうことに気付かせる。 読んだ情報や心情をおおる情報も混在していることに気付かせよう。
	3. 学習のねらいを知る。 性トラブルについて考え、自他の人格を尊重した行動を目指す	
展開①全体15分	4. ネットで個人の悩みや不安を相談することの効果や課題を考えてみよう。 <予想される反応> ・家族に言えないことでも知らない人なら心を軽くして相談できる ・解決できるのであれば良い ・ネットだとすぐに反応があるから良い 	不安や悩みをネットで相談できる利点と課題をどう思いますか？ 匿名性、手軽さ、24時間利用可能などの利点と、情報の信頼性、個人情報の漏洩リスク、相談料の発生などの課題を挙げて、生徒の意見を聞き、メリットとデメリットを整理させる。 悩みをネットで相談することは、「便利・気軽」でよいのか問います。

展開①全体15分	ネットが不安や悩みを解決する・・・それって本当に正しいの？ 5. 資料①-1を黙読する。 恵理子がとった行動の問題点は、いくつか挙げられるだろう <予想される反応> ・フィルタリングを外してしまった ・メッセージに反応してしまった ・顔がわかる写真を送ってしまった ・IDを教えた ・愚痴や秘密を打ち明けてしまった	○資料を読み、気になる所に線を引く。意図的に指名につなぐ。 ○恵理子さんの心情に寄り添い考えるように促す。 ○ネットにおいては理想と現実の違いが生じることを説明する。 悩みは、簡単に相談できるものではなく、そのような時に人は孤立にさいなまれることに共感できるようにしましょう。
	6. 資料①-2を黙読し、ワークシートに記入する。	

展開①グループ15分	なぜ恵理子は、顔が真っ白になったのだろう。 <予想される反応> ・怖い・誰にも相談できない・後悔 ・恥ずかしい・親に怒られる ・みんなから嫌われてしまう・一生の問題 7. 資料②～④の班別に配布し、どんな性トラブルが起きて、何が要因だったか、具体的な予防策を班員による話し合い活動からワークシートを記入する。	顔が見えていないのに人間関係ができるかな？心の動き（不安感→安心感）につけこまれたことに気付くよう導きましょう。 ○トラブル（問題点、心情、今後予想されるトラブル、対処の仕方）について自分事として考えることができるように配慮する。 ○スクールカウンセラー、養護教諭との協力で新たな視点でより深く、学ぶことができます。
	8. グループの意見を全体に共有する。 <予想される反応> ・個人情報や画像を送らない ・甘い誘惑には乗らない・会わない ・不安や悩みは信頼できる人に相談  「プライベートゾーンを大切に」「自分を大切に」「イヤだと思う自分の気持ちを大切に」など、カウンセラーの視点から補足説明します。	○ホワイトボードを用いて、班長が発表する。 ○資料④について説明し、男女問わず性トラブルに巻き込まれてしまうケースについて説明する。
終末まとめる10分	9. 本時の学習のまとめをする。 性トラブルに巻き込まれないためにどのように対応しますか？意思決定 <予想される反応> ・個人情報や画像の投稿は避け、フィルタリングをかける等、責任をもった行動をする。 ・悩みがあればSNSではなく、信頼できる大人に相談する。	○8.を踏まえ、不安や悩みを抱えた時の対応について考えるよう促す。 「面識のある信頼できる大人に相談しよう。」性は多様で、個人差があるものです。大切な話ほど、相談する相手の見極めと顔を合わせての対話が大切です。秘密は守るので悩みや不安があれば、「いつでも保健室に来てくださいね。」など養護教諭の視点から説明します。
	10. 授業を振り返り、実生活につなぐ。	○意思決定した「自他の人格を尊重した責任ある行動」と「性トラブルの未然防止」の具体が実践に生かされるよう意欲付けする。

高等学校段階

＜高等学校学習指導要領（H30）＞

（１） 現代社会と健康＜入学年次又はその次の年次＞

現代社会と健康について，自他や社会の課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 現代の感染症とその予防

感染症の発生や流行には，時代や地域によって違いがみられること。その予防には，個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。

＜高等学校学習指導要領（H30）解説 保健体育編の関連する記述＞

（１） 現代社会と健康＜入学年次又はその次の年次＞

(1) 現代の感染症とその予防

感染症は，時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け，発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。その際，交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること，また，新たな病原体の出現，感染症に対する社会の意識の変化等によって，腸管出血性大腸菌（O157 等）感染症，結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解できるようにする。

また，感染症のリスクを軽減し予防するには，衛生的な環境の整備や検疫，正しい情報の発信，予防接種の普及など社会的な対策とともに，それらを前提とした個人の取組が必要であることを理解できるようにする。その際，エイズ及び性感染症についても，その原因，及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解できるようにする。

＜高等学校学習指導要領（H30）＞

（１） 現代社会と健康＜入学年次又はその次の年次＞

（３） 生涯を通じる健康

自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

（ア）生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

【内容の取扱い】

思春期と健康、結婚生活と健康及び加齢と健康を取り扱うものとする。また、生殖に関する機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。責任感を涵養することや異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処についても扱うよう配慮するものとする。

<高等学校学習指導要領（H30）解説 保健体育編の関連する記述>

（３）生涯を通じる健康<入学年次又はその次の年次>

（ア）生涯の各段階における健康

① 思春期と健康

思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面，心理面，行動面などの変化に関わり，健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。その際，これらの変化に対応して，自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること，及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解できるようにする。

なお，指導に当たっては，発達の段階を踏まえること，学校全体で共通理解を図ること，保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

② 結婚生活と健康

結婚生活について，心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。その際，受精，妊娠，出産とそれに伴う健康課題について理解できるようにするとともに，健康課題には年齢や生活習慣などが関わることに理解できるようにする。また，家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解できるようにする。また，結婚生活を健康に過ごすには，自他の健康に対する責任感，良好な人間関係や家族や周りの人からの支援，及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解できるようにする。

なお，妊娠のしやすさを含む男女それぞれの生殖に関わる機能については，必要に応じ関連付けて扱う程度とする。

<高等学校学習指導要領（H30）>

第5章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔ホームルーム活動〕

2 内容

（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに，共に協力し尊重し合い，充実した生活づくりに参画すること。

オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立

節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや，事件や事故，災害等から身を守り安全に行動すること。

＜高等学校学習指導要領（H30）解説 保健体育編の関連する記述＞

イ 男女相互の理解と協力

高校生の時期は、身体的にほぼ成熟し、男女それぞれの性的な特徴が明確になってくる。それにつれて、異性への関心も高まり、異性との交友を望むようになり、意識する異性の対象がかなり特定化される傾向も強まってくる。（略）・・・具体的には男女相互の理解と協力、人間の尊重と男女の平等、男女共同参画社会と自分の生き方などの題材を設定し、アンケートやインタビューを基にしたり、新聞やテレビ等の資料を参考にしたりして、話し合うなど活動の工夫を行うことが考えられる。

なお、「男女相互の理解と協力」については、性に関する指導との関連を図ることが大切である。性に関する指導については、青少年の性意識の変化、性モラルの低下などが指摘されていることを十分考慮し、特別活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する指導との関連を重視するとともに、特に保健体育科の「保健」との関連を図り、心身の発育・発達における個人差にも留意して、生徒の実態に基づいた指導を行うことが大切である。

オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立

（略）・・・また、性に対する正しい理解を基盤に、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、適切な行動がとれるように指導することも大切であり、性的情報の氾濫する現代社会において、自己の行動に責任をもって生きることの大切さや、人間尊重の精神に基づく男女相互のよりよい人間関係の在り方などと結び付けて指導していくことが重要である。

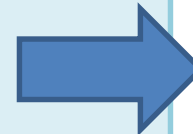
（略）・・・内容によっては、養護教諭や関係団体などの協力を得ながら指導することも大切である。

- 性感染症や妊娠・出産を含む児童生徒の健康問題を総合的に開設した教材を文部科学省において作成し、教育委員会等へ周知。

＜高校生向け教材の構成＞



1. 心の健康
2. 日常の事件・事故
3. 交通安全
4. 自然災害
5. 高校生の食事
6. 体重コントロール
7. 生活習慣病
8. 歯と目の健康
9. 喫煙の害
10. 飲酒の害
11. 薬物乱用の害
12. 対処方法（喫煙、飲酒、薬物）
13. 健康情報
14. 感染症
- 15. 性感染症**
- 16. HIV, エイズ**
17. 予防接種
18. 医薬品
- 19. 妊娠と出産（1）**
- 20. 妊娠と出産（2）**
21. がん



＜項目別の主な記載内容＞

15. 知らないと怖い性感染症

- ・性感染症とは？
- ・近年、特に梅毒が増えています
- ・予防が大切です

16. HIV, エイズについて

- ・HIV, エイズとは？
- ・世界の状況
- ・日本の状況
- ・感染経路を知り、予防しましょう
- ・感染を知るには検査 等々

19. 妊娠・出産に関連して

- ・ライフプランを考えたことはありますか？
- ・性に関わる意思決定・行動選択
- ・不妊で悩む人もいます
- ・妊娠と年齢の関係を知らない人が多い？
- ・考えてみよう

20. 赤ちゃんの健康を守る取組

- ・日本の母子保健
- ・赤ちゃんとお母さんの健康を守る（母子健康手帳）
- ・安心して産み育てられる社会の実現に向けて
- ・私たちにできること

19 妊娠・出産に関連して

ライフプランを考えたことはありますか？

あなたは将来どのような人生を送りたいか、考えたことはありますか？
将来の進学、仕事に加え、結婚や、妊娠・出産をどうするかについては、その時期も含め、あなたの自由な意志に基づいて決めることです。

希望を実現するために、どんな選択肢があるのかや、年齢により体がどう変化するのかなどについて、正しい知識・情報を得ておく必要があります。それらをふまえ、一人一人が意志をもってライフプランを考えることがとても大切です。



性にかかわる意志決定・行動選択

- ・性に関わる行動は、自分だけではなく、相手の人生にも大きくかわります。
- ・「こんなことを言ったら相手に嫌われてしまうのでは」と恐れたり、「まあいいか」と一時的な感情に流されるのではなく、自分にとって大切なことはきちんと相手に伝えましょう。また、自分の意志と同じように相手の意志も尊重しましょう。
- ・行動選択をする上では、正しい知識を持つことが重要です。性に関する疑問があっても、恥ずかしくてなかなか口に出せないかもしれませんが、体や心の悩みを一人で抱えなくてよいことを知っておいてください。

自分にとって何が大事だろう
相手にとって何が大事だろう

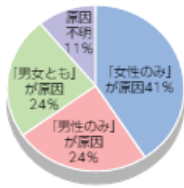


健康面や経済面などを含め、家族として妊娠や出産の準備ができていくかどうかということは子供の健康を守るうえでも重要です。このような観点からは「避妊」が選択肢となることもあり、その方法としてはコンドームやピルが選択肢として考慮されます。もし避妊に失敗した場合等には、産婦人科の医療機関を受診の上、性交から服薬まで72時間（3日間）を過ぎない間に内服薬で緊急的に避妊する方法が取られることもあります。

不妊で悩む人もいます

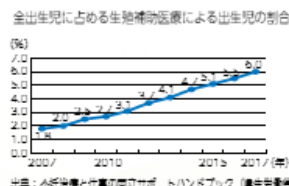
- ・生殖年齢の男女が妊娠を希望し、ある一定の期間（1年間）、避妊することなく通常の性交を継続的にに行っているにもかかわらず、妊娠の成立をみない場合を不妊（症）といいます。
- ・不妊（症）の原因は、男性側の原因が24%、女性側の原因が41%、男女両方の原因が24%、原因不明が11%とされています（図）。

例えば、精巣で精子をつくるのができない場合、精子の通り道に問題がある場合、受精卵の着床ができない場合などの原因が存在します。



出典：WHO（世界保健機関）

- ・日本では、不妊を心配したことがある夫婦は35.0%となり、これは夫婦全体の約2.9組に1組の割合になります。また、実際に不妊の検査や治療を受けたことがある（または現在受けている）夫婦は18.2%となり、これは夫婦全体の約5.5組に1組の割合になります。
- ・2017年に日本では、全出生児に占める生殖補助医療（体外受精、顕微授精、凍結胚（卵）を用いた治療）による出生児の割合が6.0%で、約16.7人に1人の割合になります（図）。



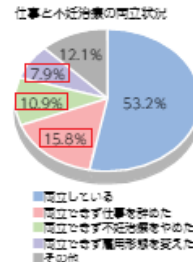
出典：不妊治療と仕事の両立サポートハンドブック（厚生労働省）

不妊に悩む方の現状

- 〈身体的・精神的な苦痛〉
- 〈検査、治療の過程における痛みなど〉
- 〈治療の継続に伴う経済的な負担の増加〉
- 〈年齢と疾病に応じて異なる治療法〉
- 〈保険適用外の治療費用〉
- 〈ネガティブな感情やストレスの発生、環境の変化など様々な悩み〉
- 〈夫婦（パートナー）間の関係性の変化〉
- 〈治療の休息、最終の決断〉
- 〈生活と治療の調整〉
- 〈医療者とのコミュニケーション〉等

出典：「不妊のこと、1人で悩まないで」【不妊専門相談センター】の相談対応を中心とした現状に関する調査（厚生労働省）（厚生労働省）

- ・不妊（症）の治療を受ける人の中には、痛みを伴う治療など、身体的・精神的に大きな負担が伴うものもあります。患者さんからは「治療の継続に伴う金銭面の負担が大きい」「いろいろ試しても妊娠できない」などの声も聞かれます。
- ・不妊治療をしたことがある（または、予定している）労働者のなかで、「仕事と両立している（または、両立を考えている）」とした人の割合は53.2%になっていますが、「仕事との両立ができなかった（または、両立できない）」とした人の割合は34.7%となっています（図）。
- ・「仕事との両立ができなかった（または、両立できない）」と回答した労働者の仕事と治療が両立できなかった理由の上位3つは、「精神面で負担が大きい」「通院回数が多い」「体調、体力面で負担が大きい」でした。



出典：不妊治療と仕事の両立サポートハンドブック（厚生労働省）

妊娠と年齢の関係を知らない人が多い？

2013年に、15歳から39歳までの男女に対して行われた意識調査の結果を見ると、妊娠と年齢の関係について「知っている」と回答した15歳～19歳は全体の約半数のみでした。また、その他の年齢層でも「よく知らない」「知らない」と回答した人が約2～3割認められました。

調査結果

（設問）妊娠と年齢の関係では、男女ともに年齢が高くなるほど妊娠する率が下がることや、妊娠の年齢が高くなるほど自然分娩率が高くなること、妊娠中の異常（産科合併症）の発症頻度が高くなること、子どもの染色体異常のリスクが高くなることなどが分かっています。このような妊娠と年齢の関係についてご存じですか。当てはまるもの一つを選択してください。



厚生労働省政策評価部政策評価課委託（若者の育成に関する調査）（2013年）より

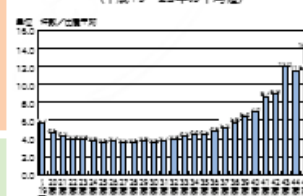
●医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなるといわれています

- ・精子は思春期以降日々つくられますが、精子は胎児のうちに一生分がつくられ、出生後に新たにつくられることはありません。
- ・精子は加齢とともに徐々に数が減少し、運動性が低下することが指摘されています。また精子は加齢とともに数が減少するなどの理由により、おおむね30代後半以降になると妊娠しにくくなるといわれています。不妊に対する治療を受けても、女性の年齢が高いほど妊娠に至る可能性は低くなることが指摘されています。

●年齢と妊娠・出産のリスクには関係があることが指摘されています

- ・お母さんの年齢別に産褥期（妊娠22週以降から、出生後1週間未満の時期）の胎児・新生児の死亡率を見ると、20歳未満や30代後半以降で高くなっています（図）。
- ・受精卵が着床し、妊娠が成立しても、その後にお母さんに高血圧などの合併症が起こったり、お母さんと赤ちゃんをつなぐ胎盤の異常が起こったりすると、お母さん・赤ちゃん両方の命にかかわることがあります。

年齢別にみた周産期死亡率（平成19～23年の平均値）



注：周産期死亡率は、1年間の周産期死亡率（妊娠22週以降の死産数＋早期新生児死亡率（生後1週間未満の死産数）を1年間の出生数（出生数＋死産数22週以降の死産数）で割ったもの（注：生後1週間未満の死産数は、出生数に含まれない）（厚生労働省人口動態統計の特別集計を基に作成）

まずは正しい情報を知ることが大切です。そして一人で悩まないことが重要です。

全国の女性健康支援センター— 厚生労働省

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/boshi-hoken14/

知っていますか？男性のからだのこと、女性のからだのこと

http://www.mhlw.go.jp/file.jsp?id=144718&name=2r985200000035kxv_1.pdf

<保健体育>

6. 展開例

(1) 結婚生活と健康

(2) 本時の目標

- ・結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解できるようにする。
- ・結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。

(3) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1. 初婚年齢と初産年齢の推移について傾向を確認する。 (発問) ・初婚と初産の年齢には、どのような傾向があると思いますか。 <予想される反応> ・結婚年齢（初婚年齢）が高くなっている。 ・出産（初産）年齢が高くなっている。	○資料「厚生労働省 人口動態統計：平均初婚年齢・母親平均出生時年齢推移」で、結婚生活において出産を考える場合、妻の初婚年齢と出生時年齢にはどのような関係があるかを、個人で確認させ、その後、生徒間で共有させる。 ○妻の晩婚化は出産（初産）年齢の上昇に大きく影響していることを説明する。
展開 ① 15分	2. 学習のねらいを知る。 (ねらい) ・受精、妊娠、出産に伴う健康課題を理解し、結婚生活を健康に過ごすためには何が必要かを考えてみよう。	○本時の内容を説明し、ねらいを理解させる。
	3. 受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解する。 (発問) ・晩婚化が進む中、結婚意欲がある未婚者が希望する子供数が減少傾向にあるのはなぜでしょう。この背景には、心身の健康に対するどんな不安、心配や悩みがあると思いますか。 <予想される反応> ・つわりや陣痛が怖い（いやだ） ・早産・流産 ・子どもが欲しいけれど、妊娠できない ・高齢出産はリスクが高い ・夫婦のストレスの解消法 ・信頼できる病院があるか (学習内容) ・結婚生活において、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わること。	○資料「国立社会保険・人口問題研究所 第15回出生動向基本調査（2015年）：「子どもについての考え方」をもとに発問する。 ○心身の健康に限定することを説明し、個人で予想させ、その後、生徒間で共有させる。 ○医学的には男性、女性ともに妊娠・出産には適した年齢があることが指摘されており、30歳前半頃から、年齢が上がるにつれて様々なリスクが相対的に高くなるとともに、出産に至る確率が低くなっていくことが指摘されていることを説明し、結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わることを押さえる。 ◆【知識・技能】 結婚生活における受精・妊娠・出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わることを、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感などや母子の健康診査等の活用が必要であること、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について、理解した内容を【観察・ワークシート】で捉える。（知②）

展開 ② 25分	4. 母子保健法から、妊娠・出産に関わる健康課題の解決方法を考え、グループ内で意見を共有しながら話し合い、発表する。 (発問) ・我が国の母性・乳幼児の健康の保持・増進を目的として制定された「母子保健法」には、妊娠した者は、速やかに妊娠の届出をしなければならないと規定されています。提出する物は何だと思いますか。 <選択肢> ・住民票記載事項証明書（不正解） ・妊娠証明書（不正解） ・妊娠届出書（正解） (追加発問) ・また「母子保健法」には、妊娠の届出をした者に対して、母子健康手帳を交付しなければならないと規定されています。交付場所はどこだと思いますか。 <選択肢> ・産婦人科医（不正解） ・都道府県（不正解） ・市区町村（正解） 保健福祉センター、母子保健センター、 〇〇市：〇〇すこやか相談所など (学習内容) ・結婚生活において、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わること。 最近では、自治体によっては父子手帳も発行されていることなどに触れて、夫の妊娠・出産への理解と育児への参加・協力の重要性について説明すると良いでしょう。	思春期と健康で学習した内容「思春期の性に関わる課題」を振り返りながら、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について触れることも重要です。 ○交ここまでの学習を受け、我が国の妊娠・出産や育児に対する政策や、地方自治体が提供するサービスを学ぶことを伝える。 ○提出する物、交付場所の順で生徒に挙手させたとえで、それぞれで解答を行う。 各自の挙手後にグループ内の意見交換を行うなど、自分以外の多様な考えを共有することも大切です。 ○交付には妊娠届出書が必要であること、この妊娠届は自己申告制であるが、医師の診察を受けていない者には市区町村が妊娠した者に対して受診を指導することを説明する。 ○妊娠した者が住んでいる市区町村長に妊娠届出書を提出すると、その市区町村から母子健康手帳が交付されるとともに、必要な保健指導を受けることができることを説明する。 ○母子健康手帳の内容には、妊娠や出産の経過から、小学校入学前までの健康状態、発育、発達、予防接種などの記録といった全国的に共通している部分と、妊娠中の注意点など、市区町村の任意で書かれる部分とがあることを説明する。 ○妊娠届出書には、妊娠の生年月日を記入する欄が必ずあり（若年妊娠や高齢出産を把握できる）、また、多くの自治体の様式では、これまでの妊娠の結果を記入する欄もあるなど、この手続きには、妊娠した者、市区町村の双方に責任を伴うものであることにも触れる。 現在は、市町村が交付する母子健康手帳の記録をデジタル化することで、一人一人に最適な情報を配信し、家族の積極的な健康管理を促し、妊娠・出産・育児期を継続的にサポートできるアプリがあることにも触れるとよいでしょう。

	(発問) - これまでの学習で理解した、結婚生活における受精・妊娠・出産に伴う心身の健康に対する不安、心配や悩みを緩和したり、支援したりするものには、どんなものがあると思いますか。 <予想される反応例> ○つわりや陣痛が怖い、早産・流産、不妊、高齢出産など →医者などの診察や専門家の助言 ○夫婦のストレスの解消法 →話し合い、親や友人への相談 ○信頼できる病院 →関係・支援サイトでの情報収集や家族への相談 (追加発問) - 結婚生活において、受精・妊娠・出産とそれに伴う心身の健康に対する不安、心配や悩みを軽減し、健康に過ごすためには、誰が、どこが、どのように取り組めば良いかを考えてみよう。 <予想される反応例> ○妻 ・体調管理をする ・飲酒や喫煙をひかえる ・困った時には相談したり受診したりする ○夫など ・喫煙をひかえる ・妻の相談を聞く ・妻に協力する ○市区町村 ・困っている夫婦をサポートする ・健診や相談窓口の情報をチラシやホームページで提供する (学習内容) - 結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感などや母子の健康診査等の活用が必要であること。	○付箋紙とワークシートを各グループに配布する。(付箋紙は1人20枚程度) ○配布後に、まずは自分の考えを付箋紙に書くこと。次に、各自の考えを班内で共有すること、他の人の意見を否定したり、自分の意見にしたりしないことを説明する。 ここでは、各自がこれまでの学習で理解したことや思いつくことを、より多く書き出すことが重要で、可能性や良し悪しにとらわれないことを伝えましょう。  ○各自の意見を出し合い、次の要領で、班内で共有させる。 ・自分の意見にはなかった意見は、自分のワークシートに記入する。 ・共有する中で思いついた意見をあらたに加えてもよい。 ○各班の発表者は、話し合いの内容を簡潔にまとめ、班でそれらを「責任」「人間関係」「支援」「保健・医療サービス」の4つに分類し、班内で確認させる。その際、分類できないものは「その他」とすることを説明する。 ○市区町村の広報（ホームページ）から、健康診査などの保健・医療サービスが行われていること、その利用と活用の必要性について説明する。 ○結婚生活を健康に過ごすためには、妻だけでなく、夫の妊娠・出産への理解と育児への参加・協力、周囲に相談や周囲の協力、地域・社会の妊婦への理解や環境づくり、医療・福祉の利用、保健所などの公的サービスの活用が重要であることを説明する。 ◆【思考・判断・表現】 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している内容を【観察・ワークシート】で捉える。(思-②)
まとめ5分	5. 本時の学習のまとめをする (指示) 本時で学んだことを振り返り、妊娠・出産をむかえる夫婦が、結婚生活を健康に過ごすためには何が必要であるかを自分の言葉でまとめてみよう。	○学習内容を振り返り、学んだことの定着を図る。 ○学習活動を促す事例として、スポーツ選手の結婚、妊娠・出産や子育てについて、トピックスを紹介しながら、年齢や生活習慣の多様性と社会的課題について触れる。 ○机間指導中に、生徒がワークシートにまとめている内容を確認し、本時のまとめの中で活用する。